



2024年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年8月14日

上場会社名 株式会社ホットランド 上場取引所 東
コード番号 3196 URL <http://www.hotland.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐瀬 守男
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 経営管理本部長 (氏名) 武藤 靖 TEL 03 (3553)8885
半期報告書提出予定日 2024年8月14日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家、アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年1月1日～2024年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期中間期	22,159	20.2	1,500	48.6	2,376	67.6	1,361	91.0
2023年12月期中間期	18,440	19.5	1,009	26.3	1,418	△19.2	712	△28.8

(注) 包括利益 2024年12月期中間期 1,674百万円 (63.8%) 2023年12月期中間期 1,022百万円 (△38.9%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期中間期	64.05	—
2023年12月期中間期	32.91	—

(注) 中間連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年12月期中間期	25,153	12,250	46.2	546.40
2023年12月期	23,713	10,756	43.4	484.03

(参考) 自己資本 2024年12月期中間期 11,617百万円 2023年12月期 10,284百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2024年12月期	—	0.00	—	—	—
2024年12月期（予想）	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	45,000	16.2	2,800	25.3	2,750	4.3	1,450	42.0	68.24

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：無

新規 ー社 (社名) ー、除外 ー社 (社名) ー

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (中間期)

2024年12月期中間期	21,655,600株	2023年12月期	21,655,600株
2024年12月期中間期	393,835株	2023年12月期	408,244株
2024年12月期中間期	21,250,458株	2023年12月期中間期	21,655,345株

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法について)

当社は、2024年8月29日 (木) に機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催予定です。その後、説明会資料は当社ウェブサイトに掲載予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	7
中間連結損益計算書	
中間連結会計期間	7
中間連結包括利益計算書	
中間連結会計期間	8
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	10
(セグメント情報等の注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(継続企業の前提に関する注記)	11

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間における我が国経済は、為替変動や物価高等の影響が続く状況ではあったものの、コロナ禍からの経済活動の正常化が進む中で雇用・所得環境の改善の動きが見られる等、緩やかな回復基調となりました。一方、海外においては、米国経済は堅調に推移しているものの、ロシア・ウクライナ情勢や中東情勢、中国経済の成長鈍化等の下振れリスクを抱え、先行き不透明な状況で推移いたしました。また、外食産業におきましては、経済活動の正常化による人流の回復やインバウンド需要の増加により好調に推移しておりますが、原材料価格や人件費の高騰に加えて、継続的な物価上昇による消費者の節約志向が強まる等、経営環境の回復は緩やかなものに留まっております。

このような状況下、当社グループは、2023年度から2027年をターゲットとした「中期経営計画」に基づき、既存事業の深化と今後を見据えた新業態・新事業の開発、育成、成長に引き続き取り組んだ結果、当中間連結会計期間における売上高は22,159百万円(前年同期比20.2%増)、営業利益は1,500百万円(前年同期比48.6%増)となりました。また、為替予約の時価評価による為替差益等の計上により、経常利益は2,376百万円(前年同期比67.6%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は1,361百万円(前年同期比91.0%増)となりました。

なお、当社グループの報告セグメントは従来までは飲食事業のみの単一セグメントでありましたが、当中間連結会計期間より新たにリゾート事業を開始したことにより、当中間連結会計期間より報告セグメントの区分を「飲食事業」と「リゾート事業」の2区分に変更しております。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

<飲食事業>

「築地銀だこ」事業においては、4月5日から21日までの期間、株式会社 MIXIが展開する人気スマホゲーム「ことば」で闘う新感覚 RPG「共闘ことば RPG コトダマン」とコラボレーションを実施したほか、4月26日から7月25日までの期間、全国の築地銀だこ店舗(一部店舗を除く)にて、「鬼滅の刃」のアニメ放送5周年を記念した、『竈門炭治郎 立志編』からテレビアニメ最新作の『柱稽古編』まで、余すことなく「鬼滅の刃」を満喫することができるコラボレーションを実施いたしました。また、5月8日から5月21日までの期間、日頃よりWoltのデリバリーサービスをご利用頂いているお客様へ感謝を込めて、全国の築地銀だこ「Wolt」加盟・サービス対応店舗(一部店舗を除く)にて『配達料無料キャンペーン』を実施いたしました。さらに、6月5日より、2年前に販売した際、予想を大きく上回る反響をいただいた、公益財団法人日本サッカー協会(JFA)公認のサッカー日本代表の愛称「SAMURAI BLUE」をイメージにオリジナルデザインしたお持ち帰り専用パック『サッカー日本代表オフィシャルライセンス商品 だんらんパック』を、全国の築地銀だこ店舗(一部店舗を除く)にて数量限定で発売いたしました。商品関連では、株式会社三越伊勢丹が運営する銀座三越との東京・銀座ならではの夢のコラボレーションとして、ここでしか実現できない「銀座4丁目のたこ焼」をイメージし、屋号の築地を銀座に変えたコラボロゴを掲げた『銀座銀だこ MITSUKOSHI』店にて、築地銀だこの“ぜったいうまい!! たこ焼”に、銀座三越内の数々の名店の中から“フレンチ・イタリアン・中華”など、“銀座三越デパ地下クオリティ”の厳選食材を使用して開発した、唯一無二のたこ焼『銀座銀だこ』6種類を期間限定で発売いたしました。また4月18日より、国産ゆずポン酢を後がけでお召し上がりいただく『九条ねぎまヨ 香るゆずポン』を、クロワッサンたい焼の新作『抹茶&ミルク』をそれぞれ期間限定で発売いたしました。こうした積極的な販売促進の取り組みにより、当中間連結会計期間における既存店売上高前年比は106.7%となりました。なお出店については、1月に「イーアスつくば店」、6月に「小倉競馬場店」をオープンいたしました。

酒場事業を展開する株式会社オールウェイズにおいては、通常の販売促進や商品開発・メニュー改定等に加え、人流の回復やインバウンド需要の増加もあり、各業態ともに引き続き好調に推移いたしました。また、5月21日から23日までと28日から30日までの計6日間、全国の銀だこ酒場業態店舗(銀だこハイボール酒場、銀だこ酒場、銀だこハイボール横丁等の一部店舗を除く)限定で、『銀だこハイボール酒場 創業15周年記念祭』を開催いたしました。なお出店については、酒場事業の中でも特に利益率の高い「銀だこハイボール酒場」・「おでん屋たけし」の新規出店に注力し、1月に「銀だこハイボール酒場 成田駅前店」、2月に「銀だこハイボール酒場 豊洲千客万来店」、3月に「銀だこハイボール横丁 新宿中央東口店」、「おでん屋たけし 中目黒店」、3月に「銀だこハイボール酒場 広島流川店」、「銀だこハイボール横丁 新宿歌舞伎町靖国通り店」、「おでん屋たけし 麻布十番店」、4月に「銀だこハイボール酒場 戸田公園店」及び「池袋西口店」、「おでん屋たけし 船橋駅南口店」、5月に「銀だこハイボール酒場 熊本三年坂店」及び「エキア竹ノ塚店」、6月に「銀だこハイボール酒場 富山駅前店」、「おでん屋たけし 新宿西口店」及び「松山大街道店」をそれぞれオープンいたしました。また、4月には株式会社ファンインターナショナルが京都と大阪で展開し、和の食文化として人気の高い“すき焼き”をリーズナブルに楽しめる!と海外のお客様を中心にSNSで大人気のお店となっている「大衆すき焼 北斗」の東京1号店として「銀座コリ

ドー店」を出店したほか、「ごっつい」としては久々の出店となる「新橋烏森店」を5月にオープンいたしました。

主食事業を展開する株式会社ホットランドネクステージにおいては、「東京油組総本店<油そば>」をはじめとした既存業態が引き続き好調に推移いたしました。なお出店については、2月に「東京油組総本店<油そば> 小倉組」、「鶏そば炭や 新橋店」、3月に「十割そば 囲炉裏 つくば店」、4月に「東京油組総本店<油そば> イオンモール太田組」、「十割そば 囲炉裏 豊洲千客万来店」、5月に「東京油組総本店<油そば> 浦和組」、6月に「東京油組総本店<油そば> 富山組」及び「香椎組」をオープンいたしました。

製販事業においては、冷凍たこ焼の大手コンビニエンスストア向け卸販売のほか、アイスクリーム製品の販路が拡大し好調に推移いたしました。また冷凍たこ焼については、引き続き海外販路の開拓に積極的に取り組んでおり、今後の需要増加を見越して、群馬県桐生市の冷凍たこ焼工場の隣地に冷凍設備倉庫を新設することを決定いたしました。

海外事業においては、今季日本人選手の活躍が期待され、全世界から注目を浴び盛り上がりつつある米国のプロ野球球団ロサンゼルス・ドジャースと協力し、米国時間3月24日にドジャースのホーム球場である『ドジャー・スタジアム』内に“築地銀だこ”をオープンし、創業以来人気No.1の“ぜったいうまい!! たこ焼”「Original (ソース)」に加え、ドジャー・スタジアムでしか味わえない『限定たこ焼』として「Cheese & Salsa (チーズ&サルサ)」、「Cheese & Guacamole (チーズ&ワカモレ)」、「Tempura & Sweet soy sauce (天ぷら&スウィート ソイソース)」を加えた計4種類のたこ焼を発売したほか、ロサンゼルス・ドジャースと複数年のパートナーシップ契約を締結いたしました。また、今後の米国国内での冷凍たこ焼の卸販売等を目的とし、カリフォルニア州をはじめとした米国本土各地及びハワイ州において、日本食や日本酒等とともに“築地銀だこの冷凍たこ焼”のプロモーションを目的とした様々なイベントに参加いたしました。米国国内における商社機能を担うHERO USA, Inc.はラスベガスの大手カジノであるウィン・ラスベガスや、カリブ海を拠点とする大手クルーズ会社であるロイヤル・カリビアン・インターナショナルなどのリーディングカンパニーに食包材を納品し、新たな商機を得ております。アセアンではインドネシアに1店舗、フランチャイズによる出店をいたしました。また6月にはベトナムでのエリアフランチャイズ契約を締結いたしました。香港では外部環境の変化が顕在化し、経済全体に負の影響が及んでおります。当社グループにおいてもコロナ禍以来厳しい状態でありましたが、当中間連結会計期間においては各事業が黒字に転じております。引き続き商機を吟味しつつ出店してまいります。

観光地に店舗を多く有する株式会社ファンインターナショナルの運営店舗は、人流の回復やインバウンド需要の増加等により引き続き堅調に推移いたしました。なお出店については、4月に「串焼き満天 六角編」を京都市内にオープンいたしました。

さらに“タイムスリップしたような昭和レトロの懐かしさ”を感じていただき、新たな“純喫茶ファン”にも楽しんでいただける、老若男女が様々なシーンで気軽に立ち寄りゆっくりと寛げる『純喫茶 ロビンソン』を5月に群馬県桐生市にオープンいたしました。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は22,353百万円(前年同期比21.2%増)、セグメント利益は1,558百万円(前年同期比54.3%増)となりました。

<リゾート事業>

今期より新たに取り組んでいるリゾート事業は、自然に囲まれた群馬県桐生市水沼エリアにて、2023年9月に開業した群馬県産の食材をはじめ様々な焼肉BBQメニューを取り揃えた全天候型「スミテラス 焼肉BBQ」、新鮮野菜やこだわりの卵料理・パンケーキなどお楽しみいただける「シカモアカフェテラス」に加え、新たな飲食施設としてこだわりの十割そばを存分に味わえる蕎麦専門店「十割そば 囲炉裏」をオープンしたほか、本格フィンランド式サウナ、コテージ・グランピングなどの宿泊施設を完備し、日帰り・宿泊など様々なシーンでご利用いただける、滞在型アウトドアレジャー施設「サウナの森 水沼ヴィレッジ」として4月23日にオープンいたしました。なお、当施設のサウナは、サウナ初心者からサウナ愛好家(サウナー)まで楽しめるよう工夫を凝らしており、貸切(プライベート)サウナは国内では珍しいエストニア「HUUM」社の薪ストーブを使用したフィンランド式サウナで本格的なロウリュを体験・お楽しみいただけます。パブリックサウナ(水着着用・男女混合)は、グランピングテント宿泊者様や日帰りのお客様もお楽しみいただけるサウナで、国産の薪ストーブを使用し、同じく本格的なサウナをお楽しみいただけるほか、全てのサウナに「天然地下水の水風呂」を完備しており、自然の中での外気浴と合わせ、室内では体験できない“贅沢な癒し”を実感していただける施設となっております。

以上の結果、当中間連結会計期間の売上高は46百万円、セグメント損失は11百万円となりました。なお、リゾート事業は当中間連結会計期間より開始した事業であるため、前年同期比を記載しておりません。

(2) 当中間期の財政状態の概況

財政状況の分析

① 資産

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して1,439百万円増加し25,153百万円となりました。その主な要因は、固定資産が1,428百万円増加したこと等によるものであります。

② 負債

当中間連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して54百万円減少し12,903百万円となりました。その主な要因は、長期借入金が528百万円増加した一方、短期借入金が749百万円減少したこと等によるものであります。

③ 純資産

当中間連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比較して1,493百万円増加し、12,250百万円となりました。その主な要因は、親会社株主に帰属する中間純利益1,361百万円の計上による利益剰余金の増加、繰延ヘッジ損益192百万円の増加等によるものです。

キャッシュ・フローの状況の分析

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物の期末残高(以下「資金」という)は167百万円増加し、2,897百万円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、増加した資金は2,296百万円(前年同期は2,045百万円の増加)であります。この増加は主に税金等調整前中間純利益2,238百万円、減価償却費725百万円があった一方、為替差益612百万円があったことによるものであります。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、減少した資金は1,553百万円(前年同期は1,443百万円の減少)であります。この減少は主に有形固定資産の取得による支出1,315百万円があったことによるものであります。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、減少した資金は578百万円(前年同期は1,140百万円の減少)であります。この減少は主に短期借入金の純減少額751百万円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間において為替予約の時価評価による為替差益832百万円を営業外収益に計上したことから、2024年2月14日付「2023年12月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表いたしました2024年12月期通期連結業績予想と比べ、経常利益及び当期純利益が大きく進捗している状況ですが、為替差損益は今後の外国為替相場により変動する性質のものであることを踏まえ、将来における不確実性等を勘案し、現時点では2024年12月期通期連結業績予想は据え置くこととし、今後、業績予想の修正等が必要となった場合には速やかに公表いたします。

なお、上記の為替予約の時価評価による為替差益につきましては、2024年6月30日時点における為替水準で計上しております。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,860,928	3,031,737
売掛金	2,401,153	2,065,163
棚卸資産	2,806,218	2,739,614
その他	2,076,921	2,320,394
貸倒引当金	△65,102	△65,373
流動資産合計	10,080,119	10,091,535
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,479,882	6,120,775
その他(純額)	2,362,073	2,537,400
有形固定資産合計	7,841,956	8,658,176
無形固定資産		
のれん	632,813	589,870
その他	88,454	72,967
無形固定資産合計	721,268	662,838
投資その他の資産		
敷金及び保証金	2,719,607	2,868,374
その他	2,368,521	2,889,968
貸倒引当金	△17,510	△17,266
投資その他の資産合計	5,070,618	5,741,077
固定資産合計	13,633,843	15,062,091
資産合計	23,713,962	25,153,627
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,770,524	1,753,287
短期借入金	2,010,086	1,260,256
1年内返済予定の長期借入金	1,292,728	1,332,865
未払金	1,432,988	1,159,502
未払法人税等	454,644	783,342
賞与引当金	146,104	166,935
資産除去債務	2,490	18,921
その他	1,953,100	1,997,355
流動負債合計	9,062,667	8,472,467
固定負債		
長期借入金	2,148,234	2,676,548
資産除去債務	882,445	899,773
退職給付に係る負債	89,214	92,209
その他	774,490	762,019
固定負債合計	3,894,384	4,430,551
負債合計	12,957,052	12,903,019

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,313,074	3,313,074
資本剰余金	3,180,584	3,184,225
利益剰余金	3,696,616	4,845,335
自己株式	△786,102	△758,380
株主資本合計	9,404,174	10,584,255
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,516	△30,410
繰延ヘッジ損益	881,364	1,073,645
為替換算調整勘定	△2,267	△996
退職給付に係る調整累計額	△10,511	△9,151
その他の包括利益累計額合計	880,101	1,033,087
非支配株主持分	472,633	633,265
純資産合計	10,756,910	12,250,608
負債純資産合計	23,713,962	25,153,627

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

(中間連結損益計算書)

(中間連結会計期間)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
売上高	18,440,893	22,159,737
売上原価	7,991,760	9,709,687
売上総利益	10,449,132	12,450,049
販売費及び一般管理費	9,439,465	10,950,010
営業利益	1,009,667	1,500,039
営業外収益		
受取利息及び配当金	3,878	14,537
為替差益	396,258	832,668
その他	30,037	59,990
営業外収益合計	430,174	907,196
営業外費用		
支払利息	16,010	25,472
支払手数料	4,342	3,361
その他	977	1,558
営業外費用合計	21,330	30,392
経常利益	1,418,511	2,376,843
特別利益		
固定資産売却益	45	1,022
特別利益合計	45	1,022
特別損失		
固定資産除売却損	64,679	21,102
店舗整理損失	13,897	29,862
減損損失	154,444	88,347
特別損失合計	233,021	139,311
税金等調整前中間純利益	1,185,535	2,238,554
法人税、住民税及び事業税	394,756	757,956
法人税等調整額	31,040	△1,635
法人税等合計	425,796	756,320
中間純利益	759,738	1,482,234
非支配株主に帰属する中間純利益	47,115	121,041
親会社株主に帰属する中間純利益	712,623	1,361,192

(中間連結包括利益計算書)

(中間連結会計期間)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
中間純利益	759,738	1,482,234
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,371	△41,927
為替換算調整勘定	34,952	40,860
退職給付に係る調整額	1,243	1,360
繰延ヘッジ損益	224,365	192,281
その他の包括利益合計	262,933	192,574
中間包括利益	1,022,671	1,674,808
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	947,750	1,514,177
非支配株主に係る中間包括利益	74,921	160,631

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	1,185,535	2,238,554
減価償却費	638,296	725,488
減損損失	154,444	88,347
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2,085	27
受取利息及び受取配当金	△3,878	△14,537
支払利息	16,010	25,472
為替差損益(△は益)	△293,604	△612,087
売上債権の増減額(△は増加)	808,528	371,900
棚卸資産の増減額(△は増加)	30,303	141,079
仕入債務の増減額(△は減少)	221,350	△53,781
賞与引当金の増減額(△は減少)	36,024	20,830
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	7,824	4,955
固定資産除売却損益(△は益)	64,633	20,079
未払金の増減額(△は減少)	△249,328	△363,120
未払費用の増減額(△は減少)	△132,561	98,086
未払消費税等の増減額(△は減少)	△161,280	△2,799
その他の資産・負債の増減額	11,628	53,414
小計	2,336,012	2,741,909
利息及び配当金の受取額	3,878	14,537
利息の支払額	△16,010	△25,472
法人税等の支払額	△278,239	△433,997
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,045,640	2,296,977
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,273,669	△1,315,854
有形固定資産の売却による収入	△9,318	112,540
無形固定資産の取得による支出	△24,490	△3,632
資産除去債務の履行による支出	△26,132	△37,961
差入保証金の差入による支出	△152,075	△194,813
差入保証金の回収による収入	85,691	61,808
貸付けによる支出	—	△5,043
投資有価証券の取得による支出	—	△104,635
その他	△43,374	△65,613
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,443,369	△1,553,206
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	1,646	△751,138
長期借入れによる収入	4,045	1,247,532
長期借入金の返済による支出	△823,750	△682,177
長期未払金の返済による支出	△820	—
リース債務の返済による支出	△95,385	△180,348
非支配株主からの払込みによる収入	10,493	—
配当金の支払額	△151,587	△212,473
自己株式の取得による支出	—	△158
非支配株主への配当金の支払額	△24,730	—
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△60,238	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,140,327	△578,761
現金及び現金同等物に係る換算差額	11,363	2,797
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△526,692	167,807
現金及び現金同等物の期首残高	3,214,614	2,729,251
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,687,922	2,897,058

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

当社グループは、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	飲食事業	リゾート事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	22,113,576	46,161	22,159,737	—	22,159,737
セグメント間の内部売上高 又は振替高	239,624	—	239,624	△239,624	—
計	22,353,200	46,161	22,399,361	△239,624	22,159,737
セグメント利益又はセグメント 損失(△)	1,558,278	△11,829	1,546,448	△46,409	1,500,039

(注) 1. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△46,409千円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループの報告セグメントは、これまで単一セグメントでありましたが、当中間連結会計期間より滞在型サウナ施設を開業してリゾート事業を開始したことに伴い「リゾート事業」を新たに報告セグメントとして追加し、「飲食事業」と「リゾート事業」の2区分に変更しております。

なお、前中間連結会計期間のセグメント情報を当中間連結会計期間の報告セグメントの区分方法により作成した情報については、「リゾート事業」が当中間連結会計期間より追加されたことから開示を行っておりません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

飲食事業セグメントにおきまして、店舗の収益性の低下により建物等の帳簿価額を回収可能価額まで減額した結果、88,347千円の減損損失を計上しております。なお、当中間連結会計期間における減損損失の計上額は88,347千円であります。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、譲渡制限付株式報酬として2024年5月24日を期日とする自己株式14,479株の処分を行いました。この結果、単元未満株式の買取りによる自己株式の増加を含め、当中間連結会計期間において、自己株式が27,722千円減少、資本剰余金が3,640千円増加し、当中間連結会計期間末における自己株式は758,380千円、資本剰余金は3,184,225千円となっております。

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。